国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

日刊 動労千葉

86. 4. 22

No. 2222

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五～六・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

“当局の意のままに尻尾をふる職員になれ”と強要

差別・選別・首切りのための「職員管理調書」を粉砕せよ

国鉄当局は、四月七日までに、全職員を対象にした「職員管理調書」を作成した。これは、商業新聞でも「職員のふり分け作業の第一弾」と書かれているように、労働者の差別・選別のための許しがたいものである。しかも、極秘であるという調査内容は、個人の思想や組合活動そのものをチェックの対象とする違法・不当極まりないものである。われわれは、この許しがたい「職員管理調書」を徹底的に暴露・弾劾するとともに、団結を強化し、差別・選別を許さない闘いを強化しよう。

生活から考え方までコマゴマとチェック

国鉄当局が各現場職制に指示し、四月七日までに管理局に提出させた「職員管理調書」は、

〈基本事項〉

氏名・職名・年令・住所・部内資格等・・・

〈特記事項〉

一般処分・労働処分・昇給・昇格・行賞・派遣・復職前提休職

〈評定事項〉

業務知識・技能・計画性・業務処理の速さ・手際良さ・業務処理の正確さ・判断能力・責任感・自発性・協調性・業務改善・職場の秩序維持・服装の乱れ・指示、命令・態度、言葉づかい・勤務時間中の組合活動・勤務に対する自覚、責任感・出退勤・信頼・増収活動・現状認識・総合評定

という徴に入り細に入るものである。まさに労働者の生活から考え方まで全てが管理の対象なのである。

「労働処分」チェックで差別・分断

そのうえで、項目の中の一つ一つの事柄について、たとえば、特記事項では、処分の回数や年度、三項八号の有無等をさらに細かくチェックするようになっている。「懲戒の基準に関する協約」を無視し、弁明弁護もやらず全く違法に一方的な処分を強行し、それをチェックするなど、そもそも許せない。

さらに、ここでの大きな問題は、「労働処分については『八二年三月』以降のものを記入」と言うことである。動労「本部」は、この間、何も闘争をやっていないのだから、この基準のつくり方は明らかに労働組合間の差別を意図していると言える。

当局への忠誠度で「五ランク」づけ

評定事項の細部チェックに至っては、怒りなしには読むことができない内容である。

「業務知識」「判断能力」等については、それぞれ「うまく仕事がこなせない」「他の模範となっている」まで五ランクに分け、「自発性」「責任感」等々でマル生度をチェックし、「組合活動をやっているか」、「職場規律・増収活動は」と調べ、「国鉄の厳しい現状を認識し、業務に取り組んでいるか」と一方的判断基準でランク付けし、「総合評定」で、①最下、②下、③普通、④上、⑤最上と、スシ屋のごとく労働者を選別するものである。

「管理調書」を粉砕せよ

この調査は、①労働組合間であらかじめ格差をつける調査基準からなりたち、組合活動そのものをチェックするなど重大な不当労働行為であり、②労働者の考え方、認識を問題にするなど、まさに憲法に保障された言論・表現の自由を抹殺し、ファッショ的労務管理を狙うものであり、③こうした調査を「新会社へのふり分けの基準とする」とマスコミに流すことで労働者間の競争と対立をあおり、④職場規律の強化・マル生分子の輩出で労働運動を叩きつぶそうとする断じて許しがたい攻撃である。

われわれは、動労革マル、鉄労等と一体となった「職員管理調書」をはじめとする差別・選別―労働運動解体攻撃を許さず、一層団結を打ち固め「61・11ダイ改」阻止へ闘いを強化しよう。

今年最大の学生デモ

「4・19」控え韓国 機動隊と衝突、混乱

【ソウル十八日＝田中特派員】李承晩元大統領を倒した「四・一九学生革命」の二十六回目の記念日を翌日に控えた十八日、韓国の各大学では、さまざまな記念行事があり、行事を終えた学生たちはデモに移り、あちこちで機動隊との衝突を繰り広げた。この日、デモに参加した学生は全国三十二大学で、約一万一千人にのぼり、今年に入ってから最大規模のデモとなった。

また、この日、ソウルの私立延世大の教授三十二人、梨花女子大の教授十人、大邱の私立嶺南大の教授五十人が改憲と民主化を求める声明を発表、これで教授が声明を出した大学は十一大学になった。

この日、延世大では午後一時ごろから校内の広場で、「四・一九学生革命」記念祭が開かれ、約一千人の学生たちが集まった。集会が終わった後、学生たちは「ファッショ憲法を撤廃」「軍部独裁打倒」などのスローガンを叫んでデモ。校内に入ってきた機動隊が催涙弾で、学生たちを解散させようとすると、学生たちは火炎瓶や石を投げて対抗。約一時間に渡って激しい衝突を繰り返した。

国立ソウル大でも約八百人の学生が記念式をした後、校内をデモし、機動隊と衝突した。私立成均館大でも学生約五百人がデモし、機動隊とぶつかった。

私立高麗大では、大学から約七・五キロ離れた道峰区水踰里にある「四月学生革命記念塔」まで学生約八千人が記念マラソン。学生たちは途中でスクラムを組んで歩き、事実上の「マラソンデモ」となった。

学生たちは光州事件の歌などを歌い、市民たちにビラを配った。帰路、学生約二千人が道路いっぱいにデモを繰り広げ、一時、機動隊とにらみ合った。

3月30日、道庁前広場をうめた5万人の光州市民

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！